

高瀬川だより

NPO法人京都高瀬川繁栄会報
編集人 田村佐起三

〒六〇四一八〇〇一
京都市中京区木屋町通三条上ル
電話（〇七五）二二二二・一八一八

弊NPOは「憲法を改正、経済力と軍事力の両方で健全な国体を支える国家」を求めます。

『揺れる情（こころ）』通信③

稲荷山武田病院院長 土屋宜之／元京都医療センター外科部長
本居宜長さんは「あはれ」とは情（こころ）の深く感ずることを言い、ただ悲しみだけを言う言葉ではないと述べました。

入院していたAさんは有名なオペラ歌手です。病棟のホールに寄贈されたグランドピアノでの弾き語りで「花は咲く」を何回も一緒に唄いました。東日本大震災直後の「花は咲く」の歌詞とメロディーは「もののあはれ」そのものです。人は悲しんで、あきらめて、怒りにふるえて、泣き崩れる時こそこんな歌を唄えるんですね。「もののあはれ」を知る「揺れる情（こころ）」は患者様・ご家族を救うのです。あとに残るご家族への患者様からの大切な贈り物なのです。宝物なのです。涙はあなたの贈り物と私は考えています。

京都市京セラ美術館

9月30日～12月3日

《井田幸昌展バンタ・レイー世界が存在する限り》

井田幸昌はこれまで「一期一会」をテーマにし絵画作品を中心に制作してきました。移りゆく時のなかで存在する様々な「もの・こと・ひと」の存在それらの関係性なくしてこの世界は成り立ちません。今、私たちが此所に存在し、ときに出会うことのできる奇跡。その一つ一つを拾い集め、自身の感じたりアリティを日々、画面に残しています。

展示する作品群は、井田の生きた軌跡でもありません。点から線へ、線から面へと広がり、さらに過去から未来への流れとなる井田の「変わり続けるもの」「また「変わらないもの」を同時に感じていただけでしょう。この時、この場所でしか出会えない力強い井田の芸術をご堪能いただける機会になれば幸いです。

《「まずやってみよう」》常楽臺住職 今小路覚真

親しくしている上賀茂の野菜農家に無理を言つて赤紫蘇を分けてもらいました。そして教えられたままに、初めて紫蘇ジュースを作り、毎日暑さ凌ぎに飲んでいきます。

経験したことがないことに挑むには、いささかの勇気がいります。しかし実際に行ってみると、たしかに戸惑いや不安がぬぐい切れません。でも二つの手順を重ねていくと、戸惑いや不安が消えるわけではありませんが、目の前に具体的な形が表れてきます。そして出来上がったものが、果して完全なものであるのかどうかは知る由もありません。でもやり通した満足感に残ります。経験したことのないことに取り掛かるには、準備を万全に整える方法もあるでしょうが、兎に角訳の分からないままに、教えられたり見たしたりしたままで、まず実行してみる、という方法もあります。

「分らないもの」もやってみれば、「分かる」こととなるのが世の中にはあります。

《ワインの買い方のコツ》イタシヨク 福村直

現代の日本では以前と比べワインが一般的に飲まれるようになりました。しかしワインを酒屋「買いに行つても他の酒類に比べると種類が多く金額も様々。どれを選べばよいかわからない」という金額は造るワイナリーや銘醸地のブランドからも影響はありますが、やはり大きく起因するのは品質です。ボトルを見比べても分かりにくいかもしれませんが、ラベルの表記にあるアルコール度数にヒントがあります。

ワインの原料となるブドウの成長度合いを測るのに糖度があります。糖度が高ければ高いほどアルコール度数は上がるので、それを目安にするとより成長したブドウを使っていることとなります。同じ1000円のワインならアルコール度数が高い方がより美味しいワインである可能性が高くなるので、本当に悩んだ際には最終手段として参考にしてください。

季節の家庭料理

田村 真紀

《九月 さつま芋と鶏肉の白ワイン蒸し》
《四人分》

鶏モモ肉五百グラム（三、四センチ大に切る）。さつま芋中一個（洗って皮付きのまま一・五センチくらいの半月切りにする）。エリンギ一パック（縦半分に切って斜め薄切りにする）。ニンニク一かけ・ローズマリー二本・白ワイン百二十ml・塩小匙半・バター十五グラム・オリーブオイル大匙二・小麦粉、黒胡椒各適量

鶏肉に塩胡椒し、小麦粉を全体にまぶしつける。フライパンにオイルと潰したニンニクを入れ火にかけて、香りが立つたら鶏肉を加え表面全体が白くなるまで炒めエリンギ、サツマ芋も加え全体を炒める。ローズマリー、白ワインを加えひと煮立ちさせ蓋をして弱火で十分蒸し煮する。塩とバターを加え全体になじませて火を止め、黒胡椒を振る。

《大原流声明雑話⑨》實光院住職 天納 玄雄

慈覚大師円仁が唐から叡山へと持ち帰った声明と、当時の南都や真言宗で唱えられていた声明は同じ旋律であつたはずだ。多少は旋律の解釈に違いがあつたとしても、諸宗の僧が同じ法会に出仕しても違和感なく唱和できる程度の差異だつたと思われる。

しかし当時の声明は楽譜もなく、口伝のみによる伝授であつたために、時代とともに同じ宗派の中でも様々な流派を生むこととなった。

天台声明では、特に難解な五曲は最重要の秘曲「五箇大曲」として特別視している。円仁はこの五曲を弟子一人づつに分けて伝授したが、のちに良忍はこの五曲全てを相伝して大原流を大成した。

円仁が唐より声明を持ち帰ってから約二百五十年後のことであつた。